

申請団体のデータ（グループ名簿、助成金要望額内訳は割愛しています）

No.1／ものづくりクラブ「チャームシルク」

継続 3年目

グループ概要

結成年月 H27. 8

構成員数 7名（50歳以上7名）

活動市町村 松本市

代表者 佐藤 陽子（74）

【事業名】ものづくりクラブ「チャームシルク」

【事業の種類】

・その他、中高年グループが主体となった地域づくり・社会貢献活動

【これまでの活動内容】

- ① トートバッグなどの作品の製作活動 11回
帯や着物をほどく→作品の型紙を作成→裁断→ミシンで縫製→ボタン等附属品の取り付け→仕上げ
- ② 値段付け 包装など出展・販売準備 1回
- ③ 出展・販売活動 計8か所
めいてつショーホール、アルプス公園フリマ、シニア大学在校生、研修会会場、電機店頭等
- ④ 手芸講習会開催 計6回
講師を招いてファスナー取り付け技術などを学んだ。
2グループに分かれ2回実施
- ⑤ 高齢者作品展出展（松本合同庁舎ロビー）

【事業の目的】

- ① 縫製技術を学び、バッグや小物などの品質を高め、より即売効果の高い作品を作成する。
- ② 作品を作業所などに寄贈する（福祉バザーなど）
- ③ 作品の売上金は経費を除いて社会福祉施設等に寄付をして社会貢献をはかる
- ④ 作業所や福祉施設に出向き縫製作業などを支援する。

【今年度の事業計画】

< 1. 事業内容 >

- ① 手芸講師に縫製の技術指導を受け技術の向上をはかる。
青木なみ子氏（東京女子美術短期大学服飾学科卒）
- ② 作製する作品の数を増やし消費者の購買意欲を高める
今年はショルダーバッグ、グラニーバッグ、ランチバッグ、ポーチ、レッスン用バッグなど多種多様の作品を作成する
- ③ 出展・販売の場所を拡大する
前年度の販売場所に加えてシェアアトリエ・ツクローネ、店頭委託（秋山電機店・善哉酒造・穂高酒店など）のスペースを借用し販売場所を拡大する。
- ④ 新メンバーの勧誘方法を検討する
- ⑤ 出展・販売の売上金の一部を4年目以降の経費に充当

< 2. 実施方法・実施回数 >

前年度は活動を月1回の頻度と取り決めたが、出展・販売にまつわる作業に追われ多忙を極めた。今年度はその反省を生かしてメンバーの気力と体力に合わせた活動を地道に実践する。

- ① 原則として活動は月1回 9:30～15:00
- ② 活動場所は松本市内の公民館及び出展販売会場

< 3. 社会貢献 >

- ① 就労継続支援 B 型事業所・松本市岡田希望の家や障害者支援施設・しらかば園などに作品を寄贈しバザーなどに活用してもらう
- ② 寄付金を福祉施設に提供する
- ③ 作業所や福祉施設に出向き縫製作業などを支援する

【将来計画】

< 3年目の事業計画 >

1. 縫製技術に磨きをかけて、より品質の良い作品の向上をめざす。
2. 趣旨に賛同するメンバーを募り、クラブの充実や活動の場を広げる
3. 店頭委託販売、シェアアトリエの利用など長期的・継続的な出展販売の方法を検討する
4. 会の発足の目的であった社会貢献を継続する（作品の寄贈や寄付行為、福祉施設への縫製作業の支援など）

*メンバーは年々体力気力共に衰えていくが、メンバー間の豊かな交流を育みながら細く長くをモットーに気力体力に見合った活動を続けたい。社会のお役にたちたいというささやかな動機付けが、メンバーの心身の健康づくりや生きがいづくりに役立ち、元気の源となることを期待したい。

【事業実施により地域に期待される効果】

1. 本活動は手先の細かな作業や知的作業を要求されるため、グループメンバーの心身の健康づくりに役に立つこと
2. 帯や着物の寄付や自作の手芸作品の無償提供など、提供者との出会いから地域の人との交流の輪が広がること
3. 作品を出展販売する際、来店した地域住民が古帯や着物の活用方法に興味関心を示し、その後帯や着物の提供に繋がること（発足から2年間で13名から提供があった）。提供者にお礼と寄付ができたことへの報告後、ていねいな返信が届き、加えて帯などの提供を申し出てくれたこと
4. 将来的には作業所や福祉施設に出向くことで、施設利用者や職員との交流がはかれること
5. 作業所などへの寄付行為や縫製作業などを通して、グループメンバーと地域社会との交流が豊かになること。
6. 地域の機関や団体との連携：児童養護施設、松本児童園、松本ゾンタククラブ、はぐまつ（松本市子育てコミュニティサイトプロジェクト：櫻井美智代事務局長）、松本市並柳子ども食堂（並カフェ）、松本市作業所との連携をはかること